

平成18年度事業報告

平成18年5月31日に「倉敷町家トラスト」設立、10月10日に法人登記し正式に特定非営利活動法人倉敷町家トラストとして活動を開始した。

今年度は本格的な事業に取り組む2007年度に向けての準備期間として、事業推進の基盤整備をするため以下の活動に取り組んだ。

1. 組織の認知と組織への参加促進

①パンフレットの作成

(8000部印刷、フォーラムや講演会など会場で資料提供として参加者に配布、屏風祭りでパネル展示と共に通りを行き交う人へ手配り、会員の手配り、店舗での配布などで6000部を配布した)

② ホームページ開設、ブログなど情報発信

③ メールマガジンの発信

④ メディアへの発信

(全国紙、地方紙、地域コミュニティーメディア、NHKなどに活動が取り上げられた)

⑤ フォーラム、シンポジュームのパネリスト参加、地方公共団体の各種まちづくり委員会委員への参加など

2. 地域資産の活用と観光振興

①町家再生利活用第一号として、小林邸(倉敷市本町11-16)の調査・建築設計と運営にかかわる仕組みづくりに取り組んだ。着工までの準備として10月8日内部を解体

3. 事業費として会員など資金調達の仕組みを作る

継続的な活動実施のための資金調達の仕組みを作ることを様々な視点から検討を進めた。活動の実績が出来つつある中で、今後、市外(特に首都圏)で活躍している倉敷出身者に「倉敷町家トラスト」の活動理念や今期の活動実績、及び倉敷の近況等の地元情報を送り、寄付を募ることを計画している。

そして、この寄付金が一定額に達した場合、それを基金に、町家の再生利活用の活動資金として有効に運用する予定であるが、このあたりは非常に責任の重い分野であり、どのようにすればよいかまだ研究中である。

なお、今年度は、先進事例として金沢の家守公室の小松氏や京町家研究会事務局長の小島氏を講師に招き、地域運営の為のファイナンス機能やマネジメント機能について勉強するなど、倉敷町家トラストとしてのファンドはどのようにあるべきか?といったことを中心として、今後の倉敷町家トラストでのファンドのあり方とその展開方策に関する勉強をした。

① 入金の仕組みづくり(正会員、賛助会員、サポーター、寄付、法人賛助会員)

② パンフレットの作成による、会員参加の呼びかけ

③ ファンドの研究

4. まちづくり活動への協力、連携など

①情報受発信と共有

②研修会や講演事業企画および支援と連携

③町家再生建築相談窓口の開設

④まちづくりの人材育成

①情報受発信と共有

- ・ 10月5日景観フォーラム市民会議
(代表理事、パネリストとして参加、ロビーにパネルを展示)
- ・ 10月7, 8, 9日、あるある備中探検隊、NPOむら参加パネル展示とパンフ配布
- ・ 10月21日屏風祭りにてパネル展示とパンフ配布(数名の会員獲得)
- ・ 11月27日倉敷東ロータリークラブ(代表理事卓話)
- ・ 1月26日岡山県備前県民局主催NPOフォーラム分科会事例発表
(代表理事、パネリストとして参加、パネル展示)
- ・ 2月3日NPOフォーラム「今、NPOを考える」～成功へのヒント～
(代表理事パネリストとして参加、パネル展示)
- ・ 2月22日倉敷ロータリークラブ(代表理事卓話)
- ・ 3月15日まちづくりフォーラム(代表理事パネリスト参加。パネル展示)

①まちづくり講座や講演事業企画および支援

- ・ 12月4日コミュニティー再生講座(金沢・家守公室:小松俊昭氏)
- ・ 2月14日コミュニティー再生講座(別府・オンパク:鶴田浩一郎氏)
(倉敷伝建地区をまもり育てる会との共催)
- ・ 3月11日コミュニティー再生講座(京都・京町家再生研究会:小島富佐江さん)
(倉敷民芸館とコラボ)
- ・ 3月17日記念講演会&報告会(文化庁・江面嗣人氏)

②町家再生建築相談窓口の開設

- ・ 3月17日(三宅商店にて1件)その他3件の建築相談があった

③まちづくりの人材育成

5. 2007年度に向けてのデータベース作り

①町家調査の実施 12月17日、1月21日、2月19日

②空き家データベースシステムの基礎資料作成

6. 内閣府より平成18年度全国都市再生モデル調査に事業に選定

事業推進の基盤整備ができた

(小林邸の調査・設計、HP開設、広報パンフ作成、町家調査、建築相談窓口開設など)

7. 事務局体制

上記の事業の実施のために事務局体制の充実

- ④ 事務所(檜村設計室の一部を使用、携帯電話を窓口を使用した)

《組織の運営》

1. 理事会の開催

(7月6日、8月2日、8月22日、9月22日、10月24日、11月10日、12月1日、1月12日、2月2日、3月2日)

2. 部会の開設

各種事業の運営管理を徹底するため

理事を中心に運営委員になり、会員の参加で以下の部会を推進した

- ① 企画広報部会
- ② 建築調査部会
- ③ 資金調達部会

このほか、韓国のまちづくり団体であるアルムジギが倉敷視察に来訪した際、行政や旅行代理店を通じ、「倉敷町家トラスト」に町家等に関する案内を依頼された。この際、会員の建築専門家や人材育成塾や町家再生活動で古民家に関する基礎知識を身につけた塾生（偶然であるが、韓国出身の留学生がいた）等が、その知識を生かして建物や町の案内を行ったが、大変喜ばれ好評であった。

このように、単なる観光ボランティアガイドとは違い、やや専門性を必要とする視点での観光案内は、「まちもり」としての側面からも我々の活動実績を生かす新たな方向性として行政等からも評価を受けている。また、要請があれば、まちなかに設けた我々の活動拠点にも観光マップ等をおいて、観光面に協力する予定である。